

世界中のお母さんに届けたい お元気ママの素？

大阪市内から車で約90分。自然豊かな高野山麓のまち、かつらぎ町。そこには、無添加こどもグミい〜というお菓子を全国に届ける猪原有紀子さんがいる。猪原さんは、WEBマーケティングの会社で活躍していたが、長男や次男が生まれてからは育児に追われる日々。育児ストレスでイライラが抑えられずに、不用意に子供を叱ってしまうこともあったという。

そんな時、猪原さんは和歌山に出会い、転機を迎える。ご主人がかつらぎ町の風景を見て「ここで家族で暮らしたら、幸せかもしれない」とポツンと呟いた。当時、そこは原野のような状態であり、すぐには「生活するイメージ」が持てなかった。しかし何度となく訪れるうちに、絶対ここで暮らすんだと思うようになり、2018年に移住した。「和歌山に来て感動したのは、色んなモノの豊かさです。ご近所の方からいただく果物や野菜の美味しさは、都会のスーパーでは決して手に入らないものでした。さらに自然の中で遊んで

いる子供達は虫などを見て、好奇心がボンボンと爆発しているように見えました。しかし楽しい時間だけではありません。ぐずる長男を静かにさせるために、添加物の入ったグミを与える「おやつストレス」で自己嫌悪になることもありました。それなら罪悪感なく与えられる、身体や環境にも優しい、子供のための無添加のグミを作ろうと思い立ちました。

かつらぎ町に、新規事業開業の補助金を何度も申請するが通らない。しかし、いつしか猪原さんの熱意が伝わり事業化が決定。SDGsの観点も考慮し、素材として試したのは美味しいのに傷があるなどの理由で、大量に廃棄されていた裏山の柿。大阪市立大学との共同開発研究を経て、構想から4年かかりで無添加でありながら、グミのような食感の商品開発に成功した。「作っているのはお菓子ではなく、おやつストレスに悩む全国のお母さんが元気になる「お元気ママの素」だと思っています」。お元気ママ、猪原さんの挑戦はまだ続く。



ご主人がポツンと呟いたまさしくその場所に現在の猪原家が建つ。広い庭には、巨大パッタやカマキリ、てんとう虫などがいっぱい。子供たちは生き物の多様さにも喜んだという。

農福連携しながら
食品ロスを無くしたい。

Social
significance

一麦会＝通称「麦の郷」で働く利用者数は300人にも上る。様々な障害を持った人たちが楽しく働いている。猪原さんは製造にもこだわり、農福連携を視野にいれ、「和の杜」に加工を依頼した。

「無添加こどもグミい〜」の加工を請け負う「和の杜」は、障害者が働く就労継続支援B型の施設。「当施設では、以前から農業における廃棄対策や6次産業化として農産物の加工を行ってきました。廃棄果物の有効利用はこれからの重要な課題だと思います」と語るのは施設長のおおなかはじめさん。また農福連携は、障害のある人の生きがいづくりだけでなく、高齢化が進む農業分野において新たな働き手の確保につながる手段としても注目を集めている。

和の杜(社会福祉法人 一麦会)
住所／和歌山市岩橋798-1 電話／073-471-4370

「和の杜」オリジナル商品。お茶や乾燥納豆、ゼリーなどバリエーションは豊富で、美味しいと評判。



①写真や雑誌の切り抜きなどを貼り、猪原さんの思いをマジックで書き込んだ、猪原さんお手製のプレゼンボード。②自宅の横に広がるのは2021年冬OPEN予定の、日本一お子様連れを歓迎する観光農園「くつろぎたいも山々」。夏は無農薬ブルーベリー狩り、冬は原木椎茸狩りが楽しめる。

くつろぎたいも山々。代表 猪原有紀子
住所／かつらぎ町丁ノ町1530-1
電話／050-5307-6709

柿

柿の生産量、全国1位の和歌山県。特にかつらぎ町がある伊都地方は栽培面積が県全体の60%以上を占める主要産地。また串にさして干し柿にする「串柿」、の日本一の産地でもある。

柿